

51 回生シラバス

科目名： 看護の基本Ⅰ (看護学概論)	単位数： 1	担当者： ①教務長 (臨床実務経験有)	総時間数 (回数)： 30 (15)	時期： 1 年前期
科目目標： ・看護の概念を捉え、看護の本質及び看護の役割と機能について理解する。				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	事前課題 学習範囲
1	看護師とは何を する職業なのか	・看護師の本来的役割と看護独自の機能について学び 看護であるもの、ないものを掴む ・ナイチンゲール「看護覚え書き」より	講義 ①	教科書①序章 教科書③
2		1.看護の本質 1) 看護の変遷 2) 看護の定義 2.看護の機能と役割 1) 看護ケアについて 2) 看護実践とその質保証に必要な要件 3) 看護の役割、機能の拡大	講義 ①	教科書① 第1章
3	看護とは	3.看護の継続性と連携 1) 看護における情報伝達と連携 2) 多職種チームの連携と継続的にかかわり 3) 在宅療養を支える連携と継続的なかかわり	講義 ①	教科書① 第2章
	看護の対象の理解	1.人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味 1) 対象理解の基盤となる人体の構造と機能病態生理 2) ホメオスタシス 3) ストレスの影響 4) 「こころ」の理解に役立つ理論 ・マズロー・危機理論 2.生涯発達し続ける存在としての人間の理解 1) 身体的発育 2) 心理社会的側面における発達 3.人間の暮らしの理解 1) 生活者としての人間 2) 看護の対象としての家族・集団・地域	講義 ①	
4		パフォーマンス課題1の提出及び発表 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;">「ナイチンゲール書簡集」を読んで、ナイチンゲールにこれからの看護の道を進む誓いを立てなさい。看護師になるための訓練とは、何を目的に、どのように訓練され、自分はどのようにして自分が理想とする看護師像に近づくのかA4用紙、1枚に書きなさい。その内容を2分にまとめて発表しなさい。</div>	発表 ①	提出期日は別に指示する。 教科書③
5	看護の理論と実践	・主な看護理論家とその理論を学ぶ 1.ナイチンゲール 2.ヘンダーソン 3.様々な看護理論 ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム、ウィーデンバック、ロイ、M. ニューマン、ワトソン	講義 ①	教科書④ 教科書①巻末資料1
6				
7				

8	国民の健康状態と生活	1.健康のとらえ方 2.国民の健康状態 3.国民のライフサイクル	講義 ①	教科書①第3章
9	看護の提供者	1.職業としての看護 2.看護職の資格・養成制度・就業状況 3.看護職者の継続教育とキャリア開発	講義 ①	教科書①第4章
10 11	看護における倫理	・看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みを理解する。 1.現代社会と倫理 2.医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 1) 患者の権利とインフォームドコンセント 2) 患者の意思決定支援と守秘義務 3.看護実践における倫理問題への取り組み 1) 看護の本質としての看護倫理 2) 倫理原則とケアの倫理 3) 看護実践場面での倫理的ジレンマ	講義 ①	教科書①第5章
12	看護提供のしくみ	・看護提供のしくみを理解する。 1.サービスとしての看護 2.看護サービス提供の場 3.看護をめぐる制度と政策 4.看護サービスの管理 5.医療安全と医療の質保証	講義 ①	教科書①第6章
13 14		パフォーマンス課題2 最終発表と提出 あなたは岡山労災看護専門学校の3年生です。1年生が基礎Ⅰ実習で、患者のニーズに応えるために、自分の最善を尽くして患者と向き合えるよう、理論をもとに看護の視点を教えるための資料をA3用紙、1枚で作成しなさい。	発表 ①	
15	終講試験		試験 ①	
教科書 ① (糸看) 基礎【1】看護学概論 (医学書院:eテキスト) ② 看護覚え書き (日本看護協会出版会) ③ 新訳・ナイチンゲール書簡集 (現代社) ④ 実践に生かす看護理論19 (サイオ出版) 教材		評価方法 筆記試験 50点 パフォーマンス課題1 20点 (評価基準はルーブリック参照) パフォーマンス課題2 30点 (評価基準はルーブリック参照) 授業態度等により加点減点する場合がある。 評価基準 60点以上で合格とする。		

担当者①実務経験あり

51 回生 シラバス

科目名：看護の基本Ⅱ (発達段階別看護と家族看護) 単位：1		担当者：(臨床実務経験有) ① 専任教員 ② 専任教員 ③ 専任教員 ④ 専任教員 ⑤ 専任教員 ⑥ 専任教員	総時間数(回数)： 30(15)	時期： 1年後期
科目目標： ・人間は出生から死に至るまで成長しつづける存在であり、すべての発達段階にある人間が看護の対象であることを理解する。 ・個人だけでなく家族も含めて看護の対象であることを理解する。				
回	単元	単元目標と内容	方法	学習範囲 事前学習
1	家族看護とは	・家族看護の特徴を理解する。 1 家族看護の特徴と理念 2 家族看護の目ざすところ 3 ライフサイクルと家族 4 家族の健康とは ・成長しつづける存在としての人間の理解	講義 ①	教科書② 第1・2章
2 3	看護の対象の理解	・看護の対象である家族の機能と発達段階を理解する。 1 家族構成・機能、家族と地域との関係性 ・ジェノグラム作成 2 現代の家族と課題	講義 個人 ワーク ①	教科書② 第1・2章
4	家族看護①	・家族を理解するための理論を理解する。 1 家族看護の実際の場面 2 家族を理解するための理論 3 家族の変化を把握するための理論 4 発達段階に合わせた看護	講義 ①	教科書② 第1・3章
5	小児看護の対象	・小児期にある対象とその家族を理解する。 1 子どもの特徴 ①乳児期 ②幼児期 ③学童期 ④思春期 2 子どもと家族、社会	講義 ②	教科書③ 第1章 教科書② 第5章
6	成人看護の対象	・成人期にある対象とその家族を理解する。 1 生涯発達の特徴 2 各発達段階の特徴 ①青年期 ②壮年期 ③向老期 3 成人期と家族、社会	講義 ③	教科書④ 第1章 教科書② 第5章
7	母性看護の対象	・周産期にある対象とその家族を理解する。 1 親になることと母性 ①妊娠期 ②分娩期 ③産褥期 ④新生児期	講義 ④	教科書⑤ 第1章 教科書②

51 回生 シラバス

		2 母子関係と家族発達		第5章
8	老年看護の対象	・老年期にある対象とその家族を理解する。 1 高齢者の定義 2 発達と成熟 3 老年期と家族, 社会	講義 ⑤	教科書⑥ 第1章 教科書② 第5章
9	精神看護の対象	・人間の心の構造と発達、家族との関係を理解する。 1 自我の発達段階 2 ライフサイクルとアイデンティティ 3 全体としての家族	講義 ⑥	教科書⑦ 第3章 教科書② 第5章
10	家族看護②	・自分の家族の構成と機能について考える。 1 家族構成と家族の機能の追加・修正（個人ワーク） ・エコマップ作成（三等親程度まで） 2 個人ワーク共有（GW）	GW ①	
11	家族看護③	・家族看護について理解する。 1 家族看護の特徴と理念 2 家族看護の実践場面 3 家族に変化をもたらすための介入	講義 ①	教科書② 第3章
12	家族看護展開方法	・健康障害をきたした患者とその家族に対する看護のあり方を理解する。 1 家族看護過程とは 2 さまざまな家族アセスメントモデル	講義 ①	教科書② 第4章
13 14	看護の対象の理解③	・各発達段階にある対象と家族機能に合わせた看護のあり方を考える。 1 個人の発達段階に合わせた看護について考える。 2 家族の機能と発達段階に合わせた看護について考える。 3 1・2の課題をまとめ、グループ発表する。	講義 GW ①	
15	終講試験	前半：試験 後半：まとめ	筆記試験 ①	

教科書 参考書

- ① (系看) 基礎【1】看護学概論 (医学書院：eテキスト)
- ② (系看) 別巻 家族看護学 (医学書院：eテキスト)
- ③ (系看) 小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院：eテキスト)
- ④ (系看) 成人【1】成人看護学総論 (医学書院：eテキスト)
- ⑤ (系看) 母性看護学概論 (医学書院：eテキスト)
- ⑥ (系看) 老年看護学 (医学書院：eテキスト)
- ⑦ (系看) 精神看護の基礎 (医学書院：eテキスト)

評価方法

- 筆記試験
個人・グループワーク
- 【配点】**
- ・筆記試験
 - 発達段階別：50点
 - 家族看護：40点
 - ・ワーク：10点

評価基準

60点以上で合格とする。

担当者①②③④⑤⑥実務経験あり

51 回生シラバス

科目名：看護の基本Ⅲ（共通看護技術） 単位数：1		担当者：（臨床実務経験有） ① 専任教員	総時間数（回数）： 45（23）	時期： 1年前期
科目目標： ・看護実践に共通するコミュニケーション技術、感染予防、健康学習支援、安全管理の技術・態度を修得する。 ・看護師に必要な看護過程と診断の技術について学ぶ。				
習得すべき看護技術 「スタンダードプリコーションに基づく手洗い」、「必要な防護用具の選択・着脱」、「無菌操作」「滅菌手袋の着脱」 「使用した器具の感染防止の取扱い」、「感染性廃棄物の取扱い」、「患者の誤認防止策の実施」 「安全な療養環境の整備」、「放射線の被ばく防止策の実施」、「人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防の実施」 「インシデント・アクシデントは発生時の速やかな報告」				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前学習
1	看護技術を学びにあたって	・看護技術の特徴が理解する。 1 看護技術とはなにか 2 看護技術の特徴 3 看護技術の範囲 4 看護技術を適切に実践するための要素 5 看護技術の発展と修得のために 6 学内、臨地において学ぶ看護技術	講義 ①	教科書① 序章
2 3 4 10	感染予防の技術	・感染防止に必要な知識と基本的技術を修得する。 1 感染予防の基礎知識 2 標準予防策（スタンダードプリコーション） 「スタンダードプリコーションに基づく手洗い」 3 感染経路別予防策 「必要な防護用具の選択・着脱」 4 洗浄・消毒・滅菌 5 無菌操作【授業内評価】 「無菌操作」「使用した器具の感染防止の取扱い」 「滅菌手袋の着脱」【授業内評価】 6 感染性廃棄物の取り扱い 「感染性廃棄物の取扱い」 7 カテーテル関連血流感染対策 8 看護診断（領域11安全/防御）	講義 デモスト 演習 小テスト ①	教科書② 第13章 教科書③ 教科書④ 教材④⑤ 【事前課題】 動画視聴 教科書③ ・手洗い ・手袋外し方 ・滅菌包みの 開け方 ・マスク着用 ・ガウン着用
5 6 13 18 19	コミュニケーション	・看護におけるコミュニケーションの相互作用と意義を理解し、効果的コミュニケーションの知識・技術・態度を理解する。 1 コミュニケーションの意義と目的 2 コミュニケーションの構成要素と成立過程 3 関係構築のためのコミュニケーションの基本 4 効果的なコミュニケーションの実際 ロールプレイ 5 コミュニケーション障害への対応 6 看護診断（領域5認知/知覚）	講義 演習 ロールプレイ 小テスト ①	教科書① 第1章 教科書④ 教材①②③
7 8 9	看護記録と看護診断	・看護における看護記録と看護診断の意義を学ぶ。 1 看護記録とは、看護過程とは 2 看護診断とは	講義 小テスト ①	教科書② 第3章 教科書③
11 12	安全確保の技術	・医療事故防止に関する基礎的知識を修得する。 1 安全確保の基礎知識 2 誤薬防止 3 チューブ類の予定外抜去 4 患者誤認防止 「患者の誤認防止策の実施」 5 転倒・転落防止 「安全な療養環境の整備」 6 薬剤・放射線暴露の防止 「放射線の被ばく防止策の実施」「人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防の実施」	講義 GW ①	教科書② 第14章 教科書④

51 回生シラバス

		7 「インシデント・アクシデントは発生時の速やかな報告」 8 看護診断（領域 11 安全／防御）		
16 17	実技試験	・手洗い、標準予防策、無菌操作、感染廃棄物の取り扱いの技術評価に合格する。 1 「標準予防策に基づく手洗い（流水）」 2 「標準予防策に基づく手洗い（擦式消毒用アルコール製剤）」 3 「必要な防護用具の選択・着脱」 4 「感染性廃棄物の取り扱い」	教員評価 ①+3人	
14 15 20 21	学習支援	・看護における学習支援の目的と意義を理解する。 1 看護における学習支援とは 2 健康に生きることを支える学習支援 3 健康状態の変化に伴う学習支援 4 学習支援の実際 グループ発表会 5 看護診断（領域 1 ヘルスプロモーション）	講義 GW 発表会 ①	教科書① 第4章 教科書④
22	まとめ 再評価	学習内容の復習 技術の再評価	講義 演習	
23	終講試験		筆記試験 ①	
教科書 参考書 ①（系看）基礎【2】基礎看護技術Ⅰ（医学書院：eテキスト） ②（系看）基礎【3】基礎看護技術Ⅱ（医学書院：eテキスト） ③ e ナーストレーナー【基礎・臨床看護技術】（医学書院） ④ NANDA-I 看護診断 定義と分類（医学書院） 教材 ① DVD 患者のこころによりそう看護コミュニケーション コミュニケーションの基本 ② DVD 患者のこころによりそう看護コミュニケーション コミュニケーションスキルⅠ ③ DVD 患者のこころによりそう看護コミュニケーション コミュニケーションスキルⅡ ④ DVD 実践！看護技術シリーズ Vol. 1 感染予防編 スタンダードプリコーション ⑤ DVD 実践！看護技術シリーズ Vol. 2 感染予防編 消毒・滅菌と無菌操作		評価方法 ・筆記試験 ・実技試験 「スタンダードプリコーションに基づく手洗い」 「必要な防護用具の選択・着脱」 「使用した器具の感染防止の取扱い」 「感染性廃棄物の取扱い」 【配点】 ・筆記試験：60点 ・小テスト：20点 （1回5点×4回） ・実技試験：20点 （1項目5点×4項目） ・授業態度：講義・演習の参加状況、課題提出状況により減点あり 評価基準 60点以上で合格とする。		

担当者①実務経験あり

51 回生シラバス

科目名：看護の基本Ⅳ (フィジカルアセスメント)		担当者：(臨床実務経験有) ① 専任教員	総時間数 (回数)： 30 (15)	時期： 1 年前期～後期
単位数：1				
科目目標： ・ 根拠に基づいて観察する基礎的技術とアセスメント力を養う。 ・ 対象の状態観察に必要な技術を修得する。				
習得すべき看護技術 「バイタルサインの測定」、「身体計測」、「フィジカルアセスメント」				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前学習
1	ヘルスアセスメントとは	・看護におけるヘルスアセスメントの目的・意義を理解する。 1 ヘルスアセスメントとは 1) 観察方法 2) 重要な視点	講義 ①	教科書① 第2章 教材①
2	系統別フィジカルアセスメント	・「人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進」系統別学習に向けた基礎的知識を理解する。 1 ケアにつなげるフィジカルアセスメント 2 系統別フィジカルアセスメントの学習の進め方	講義 ①	教科書① 第2章 教材①
3	全体の概要①	・フィジカルアセスメントに必要な技術を理解する。 1 フィジカルアセスメントに必要な技術 ①視診・触診・聴診・打診 2 全身状態・全体印象の把握	講義 演習 ①	教科書① 第2章 教科書③ 教材② 【事前課題】 動画視聴 教科書④ ・打診の仕方 ・打腿器
4 5	健康歴とセルフケア能力のアセスメント	・問診の技術、健康歴の聴取、セルフケア能力のアセスメント方法を理解する。 1 問診 (面接) の技術 2 健康歴聴取の技術 3 セルフケア能力のアセスメント	講義 演習 発表 ①	教科書① 第2章
6 7 8	全体の概要②	・バイタルサインの観察に必要な知識と基礎的技術を修得する。 1 「バイタルサインの測定」観察とアセスメント 体温・脈拍・呼吸・血圧・意識 2 呼吸音聴診 3 看護診断 (領域 11 安全/防御 類 6 体温調節) 4 生体情報のモニタリング ①心電図モニター ②SPO ₂ モニター (パルスオキシメーター)	講義 演習 ①	教科書① 第2章 教科書② 第11章 教科書⑤ 教材③ 【事前課題】 動画視聴 教科書③ ・脈拍測定 ・血圧測定 ・検温法
9 10	全体の概要③	・身体計測に必要な知識と基礎的技術を修得する。 1 計測の実際 ・「身体計測」【学生間評価】	講義 演習 学生間評価 ①	教科書① 第2章 【事前課題】 動画視聴 教科書③ ・身長計測 ・胸囲計測 ・腹囲計測
11	学生間評価	・バイタルサインの測定を学生間で評価を行い、自己の課題を理解する。 1 「バイタルサインの測定」【学生間評価】 2 「バイタルサインの測定 (呼吸音聴診)」【学生間評価】	講義 演習 学生間評価 ①	教科書① 第2章 教科書③

51 回生シラバス

12	心理・社会状態のアセスメント	・心理面・社会的側面の理解に必要な技術を理解する。 1 心理的側面のアセスメント 2 社会的側面のアセスメント	講義 ①	教科書① 第2章 教科書③
13 14	実技試験	・バイタルサインの測定の技術評価に合格する。 1 「バイタルサインの測定」 (体温・脈拍・血圧・呼吸・SP0 ₂ ・意識)	教員評価 ①+5人	
15	終講試験	前半：試験 後半：解説、まとめ	筆記試験 ①	
教科書 ① (系看) 基礎【2】基礎看護学Ⅰ (医学書院:eテキスト) ② (系看) 基礎【3】基礎看護学Ⅱ (医学書院:eテキスト) ③ eナーストレーナー【基礎・臨床看護技術】 (医学書院) ④ eナーストレーナー【フィジカルアセスメント】 (医学書院) ⑤ NANDA-I 看護診断 定義と分類		評価方法 ・筆記試験 ・実技試験「バイタルサインの測定」 【配点】 ・筆記試験：60点 ・小テスト：20点 ・実技試験：20点 ・授業態度：講義・演習態度により減点あり		
教材 ① DVD 山内豊明教授のフィジカルアセスメント 総論 ② DVD 山内豊明教授のフィジカルアセスメント 触診・打診・聴診 ③ DVD 山内豊明教授のバイタルサインの測定 血圧・脈拍・心拍		評価基準 60点以上で合格とする。		

担当者①実務経験あり

51 回生シラバス

科目名：日常生活援助技術Ⅰ（環境と安全の援助） 単位数：1		担当者： ① 専任教員 （臨床実務経験有）	総時間（回数）： 30（15）	時期： 1年前期
科目目標： ・療養生活を構成する要素を理解し、快適な病床環境を整える方法を学ぶ。 ・患者の状態に合わせた安全で快適な療養環境調整の方法と技術を修得する。 ・患者が臥床した状態でのリネン交換の技術を修得する。				
習得すべき看護技術 「ベッドメイキング」、「快適な療養環境の整備」、「安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）」、 「臥床患者のリネン交換」				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前課題
1	環境調整技術 援助の基礎知識	・人間と環境の関係について理解する ・環境調整における看護師の役割について理解する 1 療養生活の環境 2 病室の環境のアセスメントと調整 1) プライバシー保護と環境整備 2) 換気と臭気の排除 3) 室温と湿度の保持 4) 騒音の原因と排除 5) 光彩と照明	講義 ①	教科書① 第1章 【事前課題】 一読 教科書①
2 3	環境調整技術 援助の実際① ベッドメイキング	・入院患者を迎えるための快適な病床の準備ができる 1 病床を整える 1) マットレス・枕の条件 2) ベッドメイキング 「ベッドメイキング」	講義 演習 ①	教科書① 第1章 教材①② 【事前学習】 動画視聴 教科書② ・ベッドメイキング
4 5	学生間評価	・「ベッドメイキング」の学生間評価に合格する 1 「ベッドメイキング」	学生間評価 ①	
6 7	環境調整技術 援助の実際② ベッド周囲の環境整備	・患者にとって安全・快適な室内の環境条件について理解する ・病棟の構造と設備、備品の調整について理解する ・病床の種類、病床に必要な条件について理解する ・環境調整技術について理解する 1 病室の環境調整 2 病室の環境調整の実際	講義 演習 ①	教科書② 第1章 教材② 【事前学習】 一読 教科書①
8	安全確保の技術 転倒・転落防止	・転倒・転落を予防するための環境調整について理解できる ・転倒・転落防止のリスクアセスメントとその防止について具体的な方法が理解できる 1 転倒・転落防止の基礎知識 2 転倒・転落の実際 3 看護診断（領域11 安全／防御 類2 身体損傷、 類4 環境汚染、類6 体温調節） 「安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）」	講義 演習 GW ①	教科書① 第14章 教科書③ 【事前学習】 一読 教科書①
9 10	実技試験①	・快適な療養環境の整備の技術評価に合格する 1 「快適な療養環境の整備」	教員評価 ①+5人	
11 12	環境調整技術 援助の実際③ リネン交換	・患者が療養生活を快適に過ごすことができるようにリネンを整える意義と方法を理解する 1 病床を整える 1) 「臥床患者のリネン交換」	講義 演習 ①	教科書① 第1章 教材③ 【事前学習】 動画視聴 教科書② ・リネン交換
13 14	実技試験②	・臥床患者のリネン交換の技術評価に合格する 1 「臥床患者のリネン交換」	教員評価 ①+4人	
15	終講試験	筆記試験	筆記試験 ①	

<p>教科書 参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院 eテキスト) ② eナーストレーナー【基礎・臨床看護技術】(医学書院) ③ NANDA-I 看護診断 定義と分類 (医学書院) ④ 看護の基本となるもの (医学書院) <p>教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ① DVD 実践!看護技術シリーズ Vol.1 日常生活の援助技術編 ベッドメイキング ② DVD 最新 基礎看護後術 DVD シリーズⅡ 第1巻 環境整備 ベッドメイキング ③ DVD 実践!看護技術シリーズ Vol.2 日常生活の援助技術編 リネン・寝衣の交換 	<p>評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ・実技試験「快適な療養環境の整備」 「臥床患者のリネン交換」 ・課題 看護の基本となるもの レポート <p>【配点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験：70点 ・実技試験：20点(各10点) ・課題：10点 ・授業態度：演習参加態度、課題提出状況により減点 <hr/> <p>評価基準</p> <p>60点以上で合格とする。</p>
--	--

担当者①実務経験あり

51 回生シラバス

科目名：日常生活援助技術Ⅱ (活動と休息の援助) 単位数：1		担当者：(臨床実務経験有) ① 専任教員	総時間(回数)： 30(15)	時期： 1年前期
科目目標： ・姿勢、移動の基本知識を理解し、体位変換の援助方法及び車椅子、ストレッチャーの移乗・移送の援助方法を修得する。 ・睡眠と睡眠障害について理解し、睡眠障害を持つ患者への援助方法を学ぶ。				
習得すべき看護技術 「安楽な体位の調整」、「体位変換・保持(仰臥位から側臥位)」、「体位変換・保持(仰臥位から端座位)」「車いすの移乗・移送」、「ストレッチャー移乗・移送」「歩行・移動介助」「移乗介助」				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前学習
1	基本的活動の援助①	・人間の活動・運動の意義を理解し、患者が健康生活を送るために必要な援助の方法を理解する。 1 基本的活動の基礎知識 2 看護診断(領域4 活動/休息 類2 活動/運動)	講義 ①	教科書① 第4章 教科書③ 【事前課題】 教科書① 一読 P.94~97
2 3 4	基本的活動の援助② 2 体位 3 移動 (体位変換・歩行)	・体位変換、歩行の援助に必要な知識と基本的技術を修得する。 1 体位 ・「安楽な体位の調整」【学生間評価】 2 移動(体位変換) ・「体位変換・保持(仰臥位から側臥位)」 ・「体位変換・保持(仰臥位から端座位)」 3 移動(歩行) ・歩行・移動介助【学生間評価】 ・「端座位からの保持」	講義 演習 学生間評価 ①	教科書② 教材①② 【事前課題】 課題プリント 動画視聴 教科書② ・体位変換 ・歩行介助
5 6	基本的活動の援助③ 4 移動 (車椅子移乗・移送)	・車椅子を用いる場合の援助に必要な知識と基本的技術を修得する。 1 移動(車椅子移乗・移送) ・「車いすの移乗・移送」	講義 演習 ①	教科書② 【事前課題】 動画視聴 教科書② ・車椅子 ・移乗・移送
6 7	基本的活動の援助④ 5 移動 (ストレッチャー 移乗・移送)	・ストレッチャーを用いる場合の援助に必要な知識と基本的技術を修得する。 1 移動(ストレッチャー移乗・移送) ・「ストレッチャー移乗・移送」	講義 演習 ①	教科書② 【事前課題】 動画視聴 教科書② ・ストレッチャー ・移乗・移送
8 9	睡眠・休息の援助	・睡眠・休息が人間に与える影響について理解する。 1 援助の基礎知識 2 睡眠・休息の援助 3 看護診断(領域4 活動/休息 類1 睡眠/休息)	講義 演習 ①	教科書① 第4章 教科書③ 【事前課題】 教科書① 一読 P.127~132
10 11	学生間評価	・体位変換、ストレッチャー移乗・移送の学生間評価に合格する。 1 「体位変換・保持(仰臥位から側臥位)」 2 「ストレッチャー移乗・移送」	学生間評価	
12 13	実技試験①	・体位変換、車椅子の移乗・移送の技術評価に合格する。 1 「体位変換・保持(仰臥位から端座位)」 2 「車いすの移乗・移送」	教員評価 ①+6人	
14	まとめ	・科目目標の到達度状況を評価し、科目のまとめに取り組める。 1 実技試験再評価 2 看護診断(領域4 活動/休息、領域11 安全/防御)	教員評価 自己学習 講義	
15	終講試験	前半：試験 後半：まとめ	筆記試験 ①	

<p>教科書 参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院 eテキスト) ② eナーストレーナー【基礎・臨床看護技術】(医学書院) ③ NANDA-I 看護診断 定義と分類 <p>教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ① DVD 最新 基礎看護技術 DVD シリーズⅠ 第7巻 体位変換・体位固定 ② DVD 実践!看護技術シリーズ Vol.3 日常生活の援助技術編 体位変換 	<p>評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ・実技試験「体位変換・保持(仰臥位から端座位)」 「車いすの移乗・移送」 ・課題 <p>【配点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験：70点 ・実技試験：20点(各10点) ・課題：10点 ・授業態度：演習参加態度、課題提出状況により減点
	<p>評価基準</p> <p>60点以上で合格とする。</p>

担当者①実務経験あり

51 回生シラバス

科目名：日常生活援助技術Ⅲ (清潔と衣生活の援助)		担当者： ①大本万里子(専任教員)	総時間数(回数)： 30(15)	時期： 1年次後期
単位数：1				
科目目標： ・人間にとっての清潔の意義を生理的、心理的、社会的な側面から理解し、身体各部位の清潔への援助方法を修得する。 ・人間にとっての衣生活の意義を多面的に理解し、対象に応じた衣生活の援助方法を学ぶ				
習得すべき看護技術 「整容」、「点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣更新」、「全身清拭」、「陰部の保清」、「おむつ交換」 「手浴」、「足浴」、「洗髪(ケリーパッド使用)」、「口腔ケア」				
回	単元	単元目標と内容	方法担当	学習範囲 事前課題
1	清潔の意義	1 清潔の意義が理解できる 1) 生理的な意義 2) 心理的な意義 3) 社会的な意義 2 皮膚・粘膜の生理的メカニズムが理解できる 1) 皮膚・粘膜の機能 2) 清潔の効果と生体の反応 3) スキンケアの基本 3 清潔のニーズのアセスメントができる 1) 皮膚・粘膜・爪・髪のアセスメント 2) 清潔のニーズと阻害要因 3) 清潔のニーズとセルフケア 4 看護診断(領域4 活動/休息 類5 セルフケア)	講義 ①	教科書① 第6章 教科書② 第6章 教科書④
2	整容	1 整容の意義と援助について理解できる 1) 洗面 2) 爪切り 3) 眼・耳・鼻の掃除 4) ひげそり 「整容」	講義 ①	【事前課題】 動画視聴 教科書② ・ひげ剃り ・爪切り 教科書① 第6章
3	口腔ケア	1 口腔ケアの意義と援助方法が理解できる 1) 口腔ケアの目的と援助方法 「口腔ケア」 2) 就床患者の口腔ケア(デモスト) 3) 就床患者の口腔ケア【事後：学生間評価】 ※授業後レポート提出あり	講義 演習 ②	【事前課題】 動画視聴 教科書③ ・口腔清拭 ・義歯の取り外し・装着 教科書① 第6章
4	衣生活と寝衣交換	1 衣服を用いることの意義が理解できる 1) 衣生活とは 2) 衣生活の援助 2 寝衣交換の援助方法が理解できる 1) 寝衣交換の目的と援助方法 「点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣更新」 2) 就床患者の寝衣交換：セパレート寝衣(デモスト) 3) 就床患者の寝衣交換：セパレート寝衣(演習) ※Tシャツ・短パン着用	講義 デモスト 演習 ①	教材① 【事前課題】 動画視聴 教科書② ・浴衣タイプの寝衣交換 ・腰上げ可能な患者 ・腰上げ不可能な患者 教科書① 第6章
5 6	全身清拭と寝衣交換	1 全身清拭、寝衣交換の援助方法が理解できる 1) 全身清拭の目的、援助方法 「全身清拭」 2) 就床患者の全身清拭(デモスト) 3) 就床患者の全身清拭(演習) ※石けん使用 ※Tシャツ・短パン着用可	講義 DVD視聴 デモスト 演習 ①	【事前課題】 動画視聴 教科書② ・蒸しタオルの持ち方 ・清拭(すべて) 教科書① 第6章 教材①

51 回生シラバス

7	陰部洗浄・おむつ交換	<p>1 陰部洗浄の意義と援助方法が理解できる</p> <p>2 おむつ交換の意義と援助方法が理解できる</p> <p>1) 陰部洗浄の目的と援助方法 「陰部の保清」</p> <p>2) おむつの種類</p> <p>3) おむつ使用の留意点</p> <p>4) おむつ交換の目的と援助方法 「おむつ交換」</p> <p>5) 就床患者の陰部洗浄とおむつ交換 (デモスト)</p> <p>6) 就床患者の陰部洗浄とおむつ交換 (演習)</p>	<p>講義</p> <p>DVD 視聴</p> <p>デモスト</p> <p>演習</p> <p>①</p>	<p>【事前課題】</p> <p>動画視聴</p> <p>教科書②</p> <p>・陰部洗浄 (男女)</p> <p>・殿部洗浄</p> <p>教科書③</p> <p>・おむつ交換</p> <p>教科書①</p> <p>第 6 章</p> <p>教材①</p>
8	手浴・足浴	<p>1 手浴・足浴の意義と援助方法が理解できる</p> <p>1) 手浴の目的、援助方法 「手浴」「足浴」</p> <p>2) 就床患者の手浴 (デモスト)</p> <p>3) 足浴の目的、援助方法</p> <p>4) 就床患者の足浴 (デモスト)</p> <p>5) 就床患者の手浴 (演習)</p>	<p>講義</p> <p>DVD 視聴</p> <p>デモスト</p> <p>演習</p> <p>①</p>	<p>【事前課題】</p> <p>教科書②</p> <p>動画視聴</p> <p>・手浴</p> <p>・足浴</p> <p>教科書①</p> <p>第 6 章</p> <p>教材③</p>
9 10	洗髪	<p>1 洗髪の意義と援助方法が理解できる</p> <p>1) 洗髪の目的と援助方法 ①ケリーパッド使用 ②洗髪台使用 「洗髪 (ケリーパッド使用)」</p> <p>2) 就床患者の洗髪：ケリーパッド使用 (デモスト)</p> <p>3) 就床患者の洗髪：ケリーパッド使用 (演習)</p>	<p>講義</p> <p>DVD 視聴</p> <p>デモスト</p> <p>演習</p> <p>①</p>	<p>【事前課題】</p> <p>教科書②</p> <p>動画視聴</p> <p>・洗髪 (ケリーパッド)</p> <p>教科書①</p> <p>第 6 章</p> <p>教材②</p>
11 12 13 14	実技試験	<p>1 清潔に関する技術評価に合格する</p> <p>1) 全身清拭・寝衣交換</p> <p>2) 陰部洗浄・おむつ交換</p>	<p>教員評価</p> <p>①+5 人</p>	
15	終講試験		<p>筆記試験</p> <p>①</p>	
<p>教科書</p> <p>①(系看) 基礎【3】基礎看護技術Ⅱ (医学書院：eテキスト)</p> <p>②e ナーストレーナー【基礎・臨床看護技術】 (医学書院)</p> <p>③e ナーストレーナー【老年看護技術】 (医学書院)</p> <p>教材</p> <p>①実践！看護技術シリーズ vol.2 全身清拭・陰部洗浄</p> <p>②実践！看護技術シリーズ vol.3 洗髪</p> <p>③実践！看護技術シリーズ vol.4 部分浴 (足浴・手浴)</p>		<p>評価方法</p> <p>・筆記試験</p> <p>・実技試験</p> <p>【学生間評価】</p> <p>「手浴・足浴」「整容」「口腔ケア」「洗髪」</p> <p>【実技試験】</p> <p>「全身清拭」「陰部の保清」「おむつ交換」</p> <p>「点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣更新」</p> <p>・課題・レポート</p> <p>配点</p> <p>・筆記試験：60 点</p> <p>・実技試験：30 点</p> <p>・課題評価：10 点</p> <p>・授業態度：講義・演習態度により減点あり</p> <p>【夏期休暇課題】</p> <p>爪切り：他者の爪切りを 3 人以上実施する</p> <p>手順書作成：事例に応じた清潔援助方法について考える。</p>		

担当者①実務経験あり

51 回生シラバス

科目名：日常生活援助技術Ⅳ (食事と排泄の援助)	担当者：(臨床実務経験有) ① 専任教員 ② 専任教員	総時間(回数)： 30(15)	時期： 1年後期	
単位数：1				
科目目標： ・食事・栄養の意義、食事に関するメカニズムを理解し、援助の必要性とさまざまな援助方法を修得する。 ・排泄の意義、排泄に関するメカニズムを理解し、援助の必要性とさまざまな援助方法を修得する。				
習得すべき看護技術 「食事介助(嚥下障害のある患者を除く)」「経管栄養法による流動食の注入」「経鼻胃管の挿入」 「排泄援助(ポータブルトイレ・床上排泄)」「浣腸」「摘便」				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前学習
1	食事援助の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> 食事援助の基礎知識を理解する。 1 栄養状態および摂取能力、食欲や食に対する認識のアセスメント 2 医療施設で提供される食事の種類と形態 3 看護診断(領域2 栄養 領域4 活動/休息 類5 セルフケア) 	講義 ①	教科書① 第2章 教科書② 【事前学習】 食事と排泄の意義 教科書① 教科書③
2	食事摂取の介助 摂食・嚥下訓練	<ul style="list-style-type: none"> 食事摂取の援助について理解し援助の実際ができる。 1 食事摂取援助の基礎知識と援助の実際 <ul style="list-style-type: none"> 「食事介助(嚥下障害のある患者を除く)」 食事介助の場面におけるリスクについて 摂食・嚥下訓練について理解できる。 2 摂食・嚥下訓練の基礎知識と援助の実際 事後課題：食事介助の行動計画作成 	講義 ① 演習	教科書① 第2章 教科書② 教材①② 【事前課題】 動画視聴 教科書② ・食事援助技術
3	食事介助の実際 学生間評価①	<ul style="list-style-type: none"> 食事介助の実際ができる。 1 食事摂取援助の基礎知識と援助の実際 「食事介助(嚥下障害のある患者を除く)」 	学生間評価 ①	教科書① 第2章 教科書② 動画視聴 教科書② ・食事援助技術
4	非経口的栄養摂取の援助	<ul style="list-style-type: none"> 非経口的栄養摂取の種類と方法が理解できる。 1 経管栄養法・中心静脈栄養法 2 演習 事後課題：経鼻胃管挿入の行動計画作成 経鼻経管栄養注入の行動計画作成 	講義 ① 演習	教科書① 第2章 教科書② 教材③④
5	胃管挿入・経管栄養法 学生間評価②	<ul style="list-style-type: none"> 胃管挿入、栄養剤注入の実際ができる。 1 経管栄養法の援助の実際 「経管栄養法による流動食の注入」 「経鼻胃管の挿入」 	学生間評価	教科書① 第2章 教科書②
6 7	実技試験①	<ul style="list-style-type: none"> 胃管挿入の実際ができる。 「経鼻胃管の挿入」 	教員評価 ①+4人	教科書① 第2章 教科書②
8	排泄援助の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> 排泄援助の基礎知識が理解できる。 1 自然排尿および自然排便の基礎知識 2 自然排尿および自然排便の介助の実際 「排泄援助(床上・ポータブルトイレ・オムツ等)」 3 看護診断(領域3 排泄と交換 類1 泌尿器系機能 類2 消化器系機能) (領域4 活動/休息 類5 セルフケア) 	講義 ②	教科書① 第3章 教科書② 教材⑥ 教科書③ 【事前課題】 動画視聴 教科書② ・排泄援助技術
9 10	危険防止について (排泄援助)	<ul style="list-style-type: none"> 排泄援助のリスクについて考えられる。 1 排泄方法に合わせた援助内容とリスク 「ポータブルトイレ介助」「床上排泄援助」「おむつ交換」 	GW ②	教科書① 第3章 教科書②
11	自然排尿および自然排便 の介助の実際 学生間評価③	<ul style="list-style-type: none"> 自然排尿、排便の介助方法の実際ができる。 1 自然排尿および自然排便の介助の実際 「排泄援助(床上・ポータブルトイレ・オムツ等)」 	演習 学生間評価 ②	教科書① 第3章 教科書②
12	排便を促す援助	<ul style="list-style-type: none"> 排便を促す援助の方法と注意点が理解できる。 1 排便を促す援助の基礎知識 「グリセリン浣腸」「摘便」 	講義 演習 ②	教科書①第3章 教科書③ 教材⑤
13	学生間評価④	<ul style="list-style-type: none"> 排便を促す援助の実際ができる。 「グリセリン浣腸」 	学生間評価 ②	教科書① 第3章 教科書②

14	学生間評価⑤	・排便を促す援助の実際ができる。 「摘便」	学生間評価 ②	教科書① 第3章 教科書②
15	終講試験		筆記試験 ②	
教科書 参考書 ① 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院 eテキスト) ② eナーストレーナー【基礎・臨床看護技術】(医学書院) ③ NANDA-I 看護診断 定義と分類 (医学書院) 教材 ① DVD 最新 基礎看護技術 DVD シリーズⅠ 第5巻 食事介助 ② DVD 実践!看護技術シリーズ Vol.4 日常生活の援助技術編 食事の介助 ③ DVD 最新 基礎看護技術 DVD シリーズⅠ 第6巻 経管栄養 ④ DVD 最新 基礎看護技術 DVD シリーズⅠ 第1巻 グリセリン浣腸・摘便 ⑤DVD 最新 基礎看護技術 DVD シリーズⅠ 第2巻 便器・尿器のあて方、ポータブルトイレへの移動			評価方法 ・筆記試験 ・実技試験「胃管挿入」 ・課題 ・受講態度 【配点】 ・筆記試験：70点 ・実技試験：10点 ・課題点：20点 ・受講態度、課題提出状況により減点 評価基準 60点以上で合格とする。	

担当者①②実務経験あり

50 回生シラバス

科目名：診療補助技術Ⅰ（薬と看護） 単位：1		担当者： ① 専任教員 （臨床実務経験有）	総時間数（回数）： 30 時間（15 回）	時期： 2 年前期
科目目標： ・与薬に必要な基礎知識を理解する。 ・与薬の援助方法を修得する。				
習得すべき看護技術 「薬剤の管理（毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗悪性腫瘍薬を含む）」、「患者の誤認防止策の実施」 「人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施」、「針刺し事故の防止・事故後の対応」 「経口薬（バツカル薬・内服薬・舌下錠）の投与」、「経皮・外用薬の投与」、「座薬の投与」 「皮下注射」、「筋肉内注射」、「静脈路確保・点滴静脈内注射」、「点滴静脈内脈内の管理」「輸血の管理」				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前課題
1	A. 与薬の基礎知識	・与薬の特徴・法的根拠を理解し、薬剤の管理方法・正しい与薬と安全管理について理解する。 1 薬物の基本的性質 2 看護師の役割 3 「薬剤の管理（毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗悪性腫瘍薬を含む）」 4 「患者の誤認防止策の実施」 5 「人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施」 6 「針刺し事故の防止・事故後の対応」	講義 ①	教科書① 第9章 教材①②
2 3	B. 経口与薬・口腔 内与薬 C. 吸入	・経口薬・吸入薬の特徴と援助の実際を理解する。 1 援助の基礎知識 2 援助の実際 3 演習「経口薬（バツカル薬・内服薬・舌下錠）の投与」	講義 演習 ①	教科書① 第9章 教材①② 【事前課題】 手順確認
4	D. 点眼 E. 点鼻 F. 経皮的与薬	・経皮・外用薬の特徴と援助の実際を理解する。 1 援助の基礎知識 2 援助の実際 3 演習「経皮・外用薬の投与」【学生間評価】	講義 デモスト 演習 ①	教科書① 第9章 教材①② 【事前課題】 動画視聴 教科書② ・点眼薬の投与 ・点鼻薬の投与
5	G. 直腸内与薬	・直腸内与薬の特徴と援助の実際を理解する。 1 援助の基礎知識 2 援助の実際 3 演習「座薬の投与」	講義 演習 ①	教科書① 第9章 教材①② 【事前課題】 動画視聴 教科書② ・直腸内投与
6	学生間評価	・直腸内与薬の技術評価に合格する。 1 「座薬の投与」「患者の誤認防止策の実施」 【学生間評価】	学生間評価 ①	
7 8	H. 注射①	・注射の特徴と援助の実際を理解する。 1 援助の基礎知識 2 援助の実際 3 演習「皮下注射」「筋肉内注射」	講義 デモスト 演習 ①	教科書① 第9章 教材③ 【事前課題】 動画視聴 教科書② ・吸い上げ方 ・皮下・皮内注射 ・筋肉内注射 ・肩峰の見つけ方
9 10	H. 注射②	・注射の特徴と援助の実際を理解する。 1 援助の基礎知識 2 援助の実際 3 演習「静脈路確保・点滴静脈内注射」「点滴静脈内の管理」	講義 デモスト 演習 ①	教科書① 第9章 【事前課題】 動画視聴 教科書② ・輸液時のミキシング ・プライミング

				・点滴静脈内注射 ・薬剤の側管注
11	学生間評価	・点滴静脈内注射の技術評価に合格する。 1 「静脈路確保・点滴静脈内注射」「患者の誤認防止策の実施」【学生間評価】	学生間評価 ①	
12	輸血	・輸血の特徴と援助の実際を理解する。 1 援助の基礎知識 2 援助の実際 3 「輸血の管理」	講義 演習 ①	教科書① 第9章 教材④ 【事前課題】 動画視聴 教科書② ・輸血セットの準備
13 14	実技試験①	・皮下・筋肉内注射の技術評価に合格する。 1 「皮下注射」「筋肉内注射」「患者の誤認防止の実施」 ※皮下注射、筋肉内注射のどちらかの指示を受け、 薬剤の準備から実施後の片付けまでの技術を実施する。	教員評価 ①+4人	
15	終講試験		試験 ①	
教科書 参考書 ① (系看) 基礎看護技術Ⅱ【3】 (医学書院：eテキスト) ② eナーストレーナー【基礎・臨床看護技術】(医学書院) 教材 ① DVD 最新 基礎看護技術 DVDシリーズⅢ 第6巻 与薬 ② DVD 項目別 臨床基礎看護の技術 Vol.1 与薬の看護技術 ③ DVD 最新 基礎看護技術 DVDシリーズⅢ 第4巻 筋肉注射・皮下注射・皮内注射			評価方法 ・筆記試験 ・実技試験「皮下注射」「筋肉内注射」 「患者の誤認防止の実施」 【配点】 ・筆記試験：60点 ・小テスト：20点(1回10点×2回) ・実技試験：20点	
			評価基準 60点以上で合格とする。	

担当者①実務経験あり

50 回生シラバス

科目名：診療補助技術Ⅱ (疾病と症状の管理と看護) 単位数：1		担当者(実務経験)： ① 専任教員 (臨床実務経験有)	総時間数(回数)： 45 (23回)	時期：2年前期
科目目標： ・各技術の目的と方法を理解し、患者の安楽につなげる看護援助の実際を学ぶ。 ・検査・治療・処置時の看護師の役割について学ぶ。				
習得すべき看護技術 「膀胱留置カテーテル管理」「導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入」「体温調節の援助」「酸素吸入療法の実際」「体位ドレナージ」 「口腔内・鼻腔内吸引」「気管内吸引」「静脈内採血」「検体(尿・血液等)の取扱い」「針刺し事故の防止・事故後の対応」 「医療機器(輸液ポンプ・シリンジポンプ・心電図モニター・酸素ボンベ・人工呼吸器)の操作・管理」				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前課題
1 2	疾病と症状の管理に必要な 技術	・当科目で学ぶ技術について理解できる。 ・症状・生体管理技術の基礎知識が理解できる。 1 症状・生体管理技術の基礎知識 2 検体検査 1) 血液検査 2) 尿検査 3) 便検査 4) 喀痰検査 3 生体情報のモニタリング 1) 心電図モニター 2) Spo2 モニター 3) 血管留置カテーテルモニター 「医療機器(輸液ポンプ・シリンジポンプ・心電図モニター・酸素ボンベ・人工呼吸器)の操作・管理」	講義 ①	教科書① 第11章 教材①②
3 4	症状・生体機能管理技術① 排泄援助技術	・自然排尿困難時の排泄の援助方法について理解できる。 1 導尿の基礎知識 2 導尿の援助の実際 「膀胱留置カテーテル管理」 「導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入」	講義・演習 デモスト ①	教科書① 第3章 教材⑤ 【事前課題】 動画視聴 教科書② ・一時的導尿 ・持続的導尿 ・カテーテル挿入
5 6	症状・生体機能管理技術③ 呼吸・循環を整える技術	・呼吸・循環を整える援助方法について理解できる。 1 酸素吸入療法「酸素吸入療法の実際」 1) 中央配管による方法 2) 酸素ボンベによる方法 2 排痰ケア 1) 体位ドレナージ「体位ドレナージ」 2) 咳嗽介助、ハフティング 3) 吸入 4) 吸引(一時的吸引) 「口腔内・鼻腔内吸引」「気管内吸引」 3 末梢循環促進ケア 4 看護診断(領域4 活動/休息 類4 心血管/肺反応) (領域11 安全/防御 類1 感染、類2 身体損傷)	講義・演習 デモスト ①	教科書① 第7章 【事前課題】 動画視聴 教科書② ・酸素投与 (中央配管方式・ 酸素ボンベ) ・吸引 (鼻腔内・口腔内・ 閉鎖式気管) ・スクイーミング
7 8	症状・生体機能管理技術② 苦痛の緩和・安楽確保の技術 学生間評価①	・苦痛の緩和・安楽確保の援助方法について理解できる。 1 体位保持(ポジショニング) 2 電法 3 身体ケアを通じてもたらされる安楽 4 援助の実際 「体温調節の援助」【学生間評価】 5 看護診断(領域11 安全/防御 類6 体温調節)	講義・演習 学生間評価 ①	教科書① 第5章 教材④ 【事前課題】 動画視聴 教科書② ・ポジショニング ・温電法・冷電法
9 10	実技試験①	・「口腔内・鼻腔内吸引」「酸素吸入療法の実際」 の技術評価に合格する。 1 「口腔内・鼻腔内吸引」 2 「酸素吸入療法の実際」	教員評価 ①+4人	
11 12	実技試験②	・「排泄の援助技術」の技術評価に合格する。 1 「膀胱留置カテーテル管理」	教員評価 ①+4人	

		2 「導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入」		
13 14	症状・生体機能管理技術④ 検体検査技術	・検体検査技術が理解できる。 1 検体検査 1) 血液検査 「静脈内採血」「針刺し事故の防止・事故後の対応」 2) 尿検査 3) 便検査 4) 喀痰検査 「検体（尿・血液等）の取扱い」	講義・演習 ①	教科書① 第11章 【事前課題】 動画視聴 教科書② ・静脈内採血
15	症状・生体機能管理技術⑤ 検体検査技術 学生間評価②	3 生体情報のモニタリング 1) 心電図モニター 2) Spo2 モニター 3) 血管留置カテーテルモニター 「医療機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ・心電図モニター・酸素ボンベ・人工呼吸器）の操作・管理」	講義・演習 ①	教科書① 第11章 【事後課題】 学生間評価 ・心電図モニター
16 17	学生間評価③	・「気管内吸引」「体位ドレナージ」の学生間評価に合格する。 1 「気管内吸引」 2 「体位ドレナージ」	学生間評価 ①	
18 19	実技試験③	・静脈内採血と検体の取扱いの技術評価に合格する。 1 真空採血管を用いた静脈血採血の援助の実際 「静脈内採血」「検体（尿・血液等）の取扱い」	教員評価 ①+4人	教科書① 第11章
20 21 22	診察・検査・処置の介助 技術	診察・検査・処置の介助技術を知る 1. 診察の介助 2. 検査・処置の介助 1) X線検査 2) コンピューター断層撮影（CT） 3) 磁気共鳴画像（MRI） 4) 内視鏡検査 5) 超音波検査 6) 肺機能検査（スパイロメトリー） 7) 核医学検査 8) 胸腔・腹腔穿刺 9) 胃洗浄	講義・GW 発表 ①	教科書① 第12章
23	終講試験		筆記試験 ①	
教科書・参考書 ①（系看）基礎【2】基礎看護技術Ⅱ（医学書院：eテキスト） ② eナーストレーナー【基礎・診療看護技術】（医学書院） ③ NANDA-I看護診断 定義と分類（医学書院） 教材 ① DVD 実践！基礎看護技術シリーズ Vol.1 診療に係わる技術編 検査時の看護Ⅰ ② DVD 実践！基礎看護技術シリーズ Vol.2 診療に係わる技術編 検査時の看護Ⅱ ③ DVD 最新 基礎看護技術DVDシリーズⅢ 第3巻 採血・血糖測定 ④ DVD 項目別 臨床基礎看護の技術 Vol.3 呼吸・循環を整える看護技術 ⑤ DVD 最新 基礎看護技術DVDシリーズⅠ 第4巻 膀胱留置カテーテル		評価方法 ・筆記試験 ・実技試験 「膀胱留置カテーテル管理」 「導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入」 「気管内吸引」「静脈内採血」 「検体（尿・血液等）の取扱い」 ・受講態度 【配点】 ・筆記試験：60点 ・実技試験：30点 ・演習、グループワーク：10点 （受講態度、課題提出状況により減点） 評価基準 60点以上で合格とする。		

50 回生シラバス

科目名：看護の応用 I (看護過程の展開)		担当者： ①専任教員 (臨床実務経験有)	総時間数 (回数)： 45 (23)	時期： 2 年次前期～後期
単位数： 1				
科目目標： ・看護過程の展開方法と看護記録方法を理解する。 ・学内演習で事例による看護過程の展開ができる。 ・NANDA-I 看護診断を理解し、活用できる。				
回	単元	単元目標と内容	方法	学習範囲
1	看護過程とは	・看護過程の基本的な考え方について理解する。 ・看護過程の展開方法と記録方法についてわかる。 1 看護記録とは 2 看護記録の法的位置づけ 3 記載・管理における留意点 4 看護記録の構成 5 看護過程とは 6 看護過程を展開する際に基盤となる考え方	講義 ①	教科書① 第 3 章 課題① 事例の事前 学習
2	看護過程の展開 方法①	・看護過程の各段階に合わせた展開方法が理解できる。 1 看護過程の各段階と構成要素 看護過程・看護診断ガイドブックの説明	講義 演習 ①	教科書① 第 3 章
3 4	看護過程の展開 方法② 【事例 A】	・紙面事例を用いて看護過程の展開ができる。 2 看護過程の各段階 1) アセスメント (情報の収集と分析) ・アセスメントの枠組 ・事例演習 1 : 情報の整理、解釈	講義 演習 ①	課題② 記録 No1~4
5 6	看護過程の展開 方法③	2 看護過程の各段階 2) 病態の理解 ・病態関連図 (No5) の書き方 3) 共同問題 ・共同問題計画 (No9) の書き方	講義 演習 ①	課題③ 記録 No5 記録 No9
7 8	看護過程の展開 方法④	2 看護過程の各段階 4) 全体像の把握と仮診断 ・全体関連図 (No6) の書き方 ・3 側面の理解と仮診断	講義 演習 ①	課題④ 記録 No6
9 10	看護過程の展開 方法⑤	2 看護過程の各段階 5) 看護問題の明確化 (看護診断) ・看護問題分析シート (No7) の書き方 6) 問題の優先順位付け ・問題リスト (No8) の書き方 ・優先順位の考え方	講義 演習 ①	課題⑤ 記録 No7 記録 No8
11	看護過程の展開 方法⑥	2 看護過程の各段階 7) 計画 ・看護問題計画 (No9) の書き方 ・期待さえる成果と看護問題計画の立案 8) 実施 ・実施と看護記録 (No10)	講義 演習 ①	課題⑥ 記録 No9 記録 No10
12 13 14 15 16	看護過程の展開 演習 ①②③④⑤ 【事例 B】	2 看護過程の展開演習 1) 紙面事例を用いた看護過程の展開 ・5~6 人のグループを編成し、グループ担当教員 による展開指導を受ける ①病態関連図 ②データベース ③全体関連図 ④分析シート・問題リスト ⑤計画 (CP・#)	講義 演習・GW ①+9 人	課題 単元前に、担 当教員の指示 に従い、提出 する
17 18 19 20	看護過程の展開 演習 ①②③④ 【事例 C】	2 看護過程の展開演習 2) 紙面事例を用いた看護過程の展開 ・5~6 人のグループを編成し、グループ毎に看護 過程の展開を実施する。 ①病態関連図・データベース ②全体関連図 ③分析シート・問題リスト ④計画 (CP・#)	講義 演習・GW ① 電子カルテ	課題 グループで演 習計画を立て 取り組む

50 回生シラバス

21	看護過程の展開	2 看護過程の展開演習	講義	課題⑦
22	演習 ⑤⑥ 【事例C】	2) 胃潰瘍患者の紙面事例を用いた看護過程の展開 ・5～6人のグループを編成し、グループ毎に看護過程の展開を実施する。 ・シミュレーション（観察と記録）	演習・GW ① 電子カルテシナリオ	記録 No10
23	終講試験	・筆記試験	筆記試験 ①	
教科書・参考書 ① (系看) 基礎【2】基礎看護学 I (医学書院：eテキスト) ② NANDA-I 看護診断 定義と分類 (医学書院) ③ これなら使える看護診断 (医学書院) ④ これなら使える看護介入 (医学書院) ⑤ よくわかる中範囲理論第2版 (学研) ⑥ 配布資料 (看護過程・看護診断ガイドブック)			評価方法 ・筆記試験 ・事例展開記録 【配点】 筆記試験 40点 事例学習テスト 15点 ※1事例5点×3事例 看護過程演習①(評価表) 10点 ※演習担当教員による評価 看護過程演習②(評価表) 20点 ※科目担当教員による評価 授業態度 15点 ※提出状況(遅れ・不備など)含む	
			評価基準 60点以上で合格とする。	

担当者①実務経験あり

科目名：看護の応用Ⅱ（臨床看護） 単位数：1		担当者： ① 専任教員（臨床実務経験有） ② 看護師（がん化学療法認定看護師） ③ 看護師（がん放射線看護認定看護師） ④ 看護師（手術看護認定看護師） ⑤ 看護師（集中ケア認定看護師） ⑥ 看護師（救急看護認定看護師） ⑦ 専任教員（消化器内視鏡技師） ⑧ 看護師（臨床工学技士） ⑨ 看護師（がん性疼痛認定看護師）	総時間数（回数）： 45（23）	時期： 2年後期
科目目標： ・看護の対象の状況（ライフサイクル・場・健康状態・症状、治療内容）に応じた看護のあり方を理解する。 ・臨床において専門的役割を果たす看護師の業務について理解する。 ・対象の状況に応じた看護援助の方法について学ぶ。				
習得すべき看護技術 「点滴とドレーン留置中の寝衣交換」「輸液ポンプの取り扱い」「人体リスクの大きい薬剤のばく露予防」 「放射線被ばく予防」「ドレーン類の挿入部の処置」「褥瘡予防ケア」「ストーマ管理」「創傷処置（創洗浄・創保護・包帯法）」 「医療機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ・心電図モニター・酸素ボンベ・人工呼吸器等）の操作・管理」「死後の処置」 「点滴静脈内注射の管理」				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前学習
1 2 3 4	健康状態の経過に基づく看護①	・健康状態に合わせた看護のあり方を学ぶ。 1 健康状態と看護 2 急性期における看護 3 慢性期における看護 4 リハビリテーション期における看護 5 終末期における看護	講義 GW 演習 ①	教科書① 第2章 教科書⑤⑫
5	治療・処置を受ける対象者の看護①	・治療・処置を受ける対象者への看護と援助方法を理解する。 1 輸液療法を受ける対象者への看護 2 輸血療法を受ける対象者への看護 3 輸液に関する技術 「点滴とドレーン留置中の寝衣交換」 「点滴静脈内注射の管理」	講義 演習 ①	教科書① 第4章 教科書② 【事前課題】 教科書⑩ 動画視聴 ・点滴中の患者の寝衣交換
6	治療・処置を受ける対象者の看護⑧	・医療機器を使用中の対象者への看護と援助後方法を理解する。 4 医療機器使用時の看護 「医療機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ・心電図モニター・酸素ボンベ・人工呼吸器等）の操作・管理」 5 輸液に関する技術 「輸液ポンプの取り扱い」	講義 演習 ①	教科書① 1 付章 【事前課題】 教科書⑩ 動画視聴 ・人工呼吸器装着患者の体位変換 ・輸液ポンプのセットの仕方
7 8	治療・処置を受ける対象者の看護②	1 化学療法を受ける対象者への看護 2 化学療法に関する技術 「人体リスクの大きい薬剤のばく露予防」 3 看護診断（領域 11 安全／防御）	講義 演習 ② 臨床見学	教科書① 第4章 教科書⑥・⑫
9	治療・処置を受ける対象者の看護③	1 放射線療法を受ける対象者への看護 2 放射線療法に関する技術 「放射線被ばく予防」 3 看護診断（領域 11 安全／防御）	講義 演習 ③ ① 臨床見学	教科書① 第4章 教科書⑥・⑧
10 11	治療・処置を受ける対象者の看護④	1 手術療法を受ける対象者への看護	講義 ④	教科書① 第4章 教科書④・⑪
12	治療・処置を受ける対象者の看護⑤	1 集中治療を受ける対象者への看護 2 周手術期の看護 「ドレーン類の挿入部の処置」【事後：学生間評価】	講義 ⑤	教科書① 第2.4章 教科書③・④・⑪
13	治療・処置を受ける対象者の看護⑥	1 救急看護	講義 ⑥	教科書① 第2章 教科書⑤

50 回生シラバス

14	医療機器の原理と実際	<ul style="list-style-type: none"> 医療機器の原理と実際を知る。 1 医療機器を安全に使うために 2 測定用医療機器の原理と実際 3 治療用医療機器の原理と実際 	講義 デモスト 演習 ⑧	教科書① 付章 教科書②・③・⑨ 【事前課題】 教科書⑩ 動画視聴 ・輸液ポンプ ・シリンジポンプ
15 16	実技試験	<ul style="list-style-type: none"> 「点滴とドレーン留置中の寝衣交換」「輸液ポンプの取り扱い」の技術評価に合格する。 1 「点滴とドレーン留置中の寝衣交換」 2 「輸液ポンプの取り扱い」 	教員評価 ①+4人	
17	治療・処置を受ける対象者の看護⑦	1 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護	講義 ⑦	教科書① 第4章 教科書④
18 21	健康状態の経過に基づく看護②	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態に合わせた看護のあり方を理解する。 1 健康の維持・増進を旨とする看護グループ発表 2 看護診断（領域9 コーピング/ストレス耐性、領域10 生活原理、領域11 安全/防御） 	講義 演習発表 ①	教科書① 第2章 教科書⑩
19 20	治療・処置を受ける対象者の看護⑨	<ul style="list-style-type: none"> 16 終末期における看護 17 緩和ケア 	講義 ⑨	教科書① 第2章 第3章 教科書⑥・⑦
22	死の看取りの援助	<ul style="list-style-type: none"> 死にゆく人と周囲の人々のケアについて理解する。 死後の処置の方法を学習する。 1 死亡の動向と場所 2 死にゆく人と周囲の人々のケア 3 我が国の風習に根付く死後の処置のあり方 4 死の看取りに関する技術「死後の処置」 5 看護診断（領域9 コーピング/ストレス耐性、領域10 生活原理） 	講義 DVD 演習 ①	教科書② 【事前課題】 教科書⑩ 動画視聴 ・死の看取りの技術
23	終講試験		試験 ①	
教科書			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ① (系看) 基礎【4】臨床看護総論 (医学書院:eテキスト) ② (系看) 基礎【3】基礎看護技術II (医学書院:eテキスト) ③ (系看) 別巻 クリティカル看護学 (医学書院:eテキスト) ④ (系看) 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院:eテキスト) ⑤ (系看) 別巻 救急看護学 (医学書院:eテキスト) ⑥ (系看) 別巻 がん看護学 (医学書院:eテキスト) ⑦ (系看) 別巻 緩和ケア (医学書院:eテキスト) ⑧ (系看) 別巻 臨床放射線医学 (医学書院:eテキスト) ⑨ eナーストレーナー【基礎・臨床看護技術】(医学書院) ⑩ NANDA-I 看護診断 定義と分類 ⑪ よくわかる周手術期看護 (学研) ⑫ がん薬物療法ベストプラクティス (学研) ⑬ 講師配布資料 			<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験 実技試験 「点滴とドレーン留置中の寝衣更新」 「輸液ポンプの取り扱い」 演習発表 (自己・他者評価) <p>【配点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆記試験: 70 点 実技試験: 20 点 (1 項目 10 点×2 項目) 演習発表: 10 点 (自己・他者評価各 5 点) 	
			評価基準 60 点以上で合格とする。	

担当者①②③④⑤⑥⑦⑧実務経験あり

50 回生シラバス

科目名:看護の応用Ⅲ(看護研究)		担当者:	総時間数(回数):	時期:
単位数: 1		① 非常勤講師 (臨床実務経験有)	30 (15)	2年後期
科目目標:				
1) 看護研究の意義と目的について理解し、研究の進め方と方法などの基本的知識を得る。				
2) 各自の課題に沿って研究計画書を書くことができる。				
3) ケースレポートを作成するための基礎的知識を習得する。				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前学習
1	看護研究とは	1.研究の意義・目的	講義①	教科書①第1章
2	リサーチクエスト	1.リサーチクエスト	講義・演習①	教科書①第2章
3	情報探索と吟味	1.文献レビューとその方法	講義・演習①	教科書①第3章
4		1) 文献とその種類 2) 文献レビューとその目的 3) 文献検索の方法 4) 文献の入手と整理 5) 文献の読み方ークリティーク 6) 文献レビューの記述	講義・演習①	文献リスト提出
5	研究における倫理的配慮	1.研究における倫理的配慮 1) 倫理的配慮の原則 2) 依頼書と同意書の書き方	講義・演習①	教科書①第4章
6	研究デザイン	1.研究デザインの選択	講義・演習①	教科書①第5章
7		1) 質的研究の方法と特徴 2) 量的研究の方法と特徴	講義・演習①	
8	データ収集と分析	1.データの収集 2.データの分析	講義・演習①	教科書①第6章 教科書①第7章
9	研究計画書の作成	1.研究計画書の作成	講義・演習①	教科書①第8章
10		1) 研究計画書の意味と書き方 2) 研究計画書の指導	講義・演習①	
11	学会発表・論文作成	1.論文の書き方について	講義・演習①	教科書①第9章
12	ケースレポートの進め方	1.ケースレポートの進め方	講義・演習①	教科書①第10章
13				
14		発表とまとめ	講義・演習①	
15				
教科書		評価方法		
① (別巻) 看護研究 (医学書院:eテキスト)		<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 (10点) ・課題 文献リスト (20点) ・発表後のレポート (10点) ・グループワークの参加状況・授業態度 (60点) 		
		評価基準		

	60 点以上で合格とする。
--	---------------

担当者①実務経験あり